

**「新しい東北」官民連携推進協議会**

**令和4年度  
意見交換会(第1回)**

**宮城県**

**「新しい東北」官民連携推進協議会事務局**

**2022年8月4日**

# ● 目次

---

1. 本日の論点
2. 過年度実施状況
3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性
4. テーマ案
5. 取り組み内容案
6. 今後のスケジュール
7. ディスカッション

# ● 1. 本日の論点

今年度の意見交換会・実践の場のテーマ案及び取り組み内容、参画団体、今後のスケジュールについて議論させていただきます。

<b>論点 1</b>	過年度事業の議論を踏まえ、宮城県として実践していく内容に関するテーマ案を検討し決定する。
<b>論点 2</b>	取り組み内容に係る参画団体について、検討及び推薦者、調整方法を決定する。
<b>論点 3</b>	論点 1、2 を踏まえ、今後のスケジュールを決定する。

## ● 2. 過年度実施状況：宮城県

過年度までの意見交換会・実践の場を通じ、課題に対する解決策導出や情報発信の成果を創出。ただし、その後の実現や取組の継続には至っていなかったことから、本年度の意見交換会・実践の場では、復興・地域活性化に向けた実行・継続の仕組みを意識した議論・取組とすることを検討します。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	年度ごとの成果
テーマ	地域コミュニティづくり、ソーシャルセクターのあり方	セクター間連携による地域課題解決	沿岸地域の仕事の担い手不足解消（特に東松島市の観光分野）	東日本大震災から10年目にあたって	地域の魅力の磨き上げ	年度ごとに被災地の状況を踏まえた課題設定と解決に向けた議論・取組でアイデア導出・情報発信
実践の場	<p>連携型交流会 in 宮城「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」（仙台市）</p> <p>ソーシャルセクター3団体による「新しい東北」創出に向けたビジネスモデルやサービス等をピッチ形式で議論</p>	<p>「南三陸をつなげる30人」（南三陸町）</p> <p>南三陸町内外の約30人が集まりフューチャーセッションを通じて、南三陸の将来像や、課題解決に向けたセクター間連携の在り方を検討</p>	<p>「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」（東松島市）</p> <p>東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成（地域一体となって観光まちづくりを行う枠組みを構築）</p>	<p>「みやぎ復興官民連携フォーラム～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～」</p> <p>東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討</p>	<p>「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」（石巻市）</p> <p>「多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上げやデータ活用について協議。</p> <p>これら協議の結果を観光事業者へ発信し意見交換をする場として開催。</p>	<p>課題</p> <p>SDGsや人口減少等を意識したテーマ設定としていくことや、関係者のネットワークやITを活用しながら広域・多業種の主体の参画</p>

## ● 2. 過年度実施状況（実践の場）：宮城県

### ■ 令和元年度：令和2年1月24日「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」

「沿岸地域の仕事の担い手不足解消」をテーマに議論を重ね、「東松島一体で観光まちづくりに取り組む枠組みの構築」および「東松島市におけるSDGsの達成」を目標として取組を行うこととし、「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」集中検討会を企画・実施。

### ■ 令和2年度：令和2年11月18日（水）「みやぎ復興 官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた「連携」の姿とその将来像を考える～」

「震災からの9年間を振り返り、復興・創生期間後を展望する取組」をテーマに議論を重ね、令和2年11月18日（水）に仙台市にて「みやぎ復興 官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた「連携」の姿とその将来像を考える～」を開催。

### ■ 令和3年度：令和4年1月27日（木）「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」

「多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上げやデータ活用について協議。これら協議の結果を観光事業者へ発信し意見交換をする場として、「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」を開催。第1部の講演パートでは（一社）石巻圏観光推進機構 業務執行理事 齊藤雄一郎氏より「『学ぶ旅』コンセプト・モデルツアー紹介」と「効率的・効果的なアプローチ・運営を叶えるデータ活用」について、観光による地域活性化プランを発表。第2部の座談会パートでは齊藤氏とともに、みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター センター長 三浦均氏、（株）日本旅行古川支店 支店長 田中靖彦氏、（独）中小企業基盤整備機構東北本部 企業支援部長 小村幸男氏、（大）東北大学災害科学国際研究所 特任教授 西依英俊氏の5名による、宮城県沿岸部への教育旅行の誘致のための課題と施策について意見交換を行った。



### ● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

#### 令和3年度意見交換会・実践の場の整理

そもそも 問題意識・ ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>• 個社が個別に取り組んでいたものを地域の魅力としてまとめる</li><li>• 地域の魅力の発掘・磨き上げと、伝承を組み合わせたオンラインも含めたツアー醸成や情報発信</li><li>• 伝統技術の体験等も交えた見せ方検討</li><li>• 地域の魅力を支える人材育成</li><li>• アプリを用いた情報発信</li></ul>
テーマ	<p>＜複数年で取り組むテーマ＞ 「観光振興」「伝承と地域の魅力の発信」</p> <p>＜単年度＞ 地域の魅力の磨き上げ</p>
令和3年度末の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"><li>• ターゲット設定・商品開発・ツアー醸成・PR実現</li><li>• 上記達成の成功要因や必要な支援・制度等をノウハウとして整理、対外的な発信</li></ul>
令和3年度の 取組結果	<ul style="list-style-type: none"><li>• 実行段階においては、石巻に加え、気仙沼・南三陸の関係者との協議を通じ、地域の中で活動を牽引する人材が存在し、実績を積み上げていることが成功要因となっていることが再確認できた。</li><li>• 観光に関わる事業においては、ツアー提供に係る関係者間での調整に多大な稼働を要していること、訪問した観光客の情報が収集できていない、もしくはそれらを統合して活用できていないことが明らかとなった。</li></ul>

## ● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

### ◎ 令和3年度第3回意見交換会における令和4年度テーマに関する意見

令和4年度のテーマについて第3回意見交換会で議論した結果、以下のような意見が挙げられた

- ・ 令和3年度を取組を生かし、令和4年度は観光の中でテーマを絞り深掘りをしていくのがよいのではないかと。
- ・ 観光のテーマから更に踏み込んだものとして、東北ならではのものをコンテンツとし、特徴を持たせる必要があるのではないかと。
- ・ 継続性のある取組となるよう、次年度は「学ぶ旅」の切り口から、交流人口の拡大や産業振興を図っていければよいのではないかと。
- ・ インパクトある取組とするため、まだ参画していない地域の方々を含め、様々な地域・団体を巻き込んでいくことが重要ではないかと。
- ・ 推進体制としては、広く沿岸の各市町村の方々にも参画いただくような工夫が必要ではないかと。
- ・ 協議会での取組を結果のみならずプロセスも含めてしっかりと発信し、関係者を巻き込んでいく必要があるのではないかと。具体的なアクションを軸にし、インバウンド等の来訪者数・KPIを把握できるように仕組みを確立し、効果を定量的に測定し発信することで、インパクトある取組にすることができるのではないかと。

### ◎ 他県の意見交換会・協議の場も合わせたR3年度の総括的な振り返り

また、R3年度の意見交換会・協議の場を総括的に振り返ると、今年度は以下の視点が求められると考えられる。

- ・ 今年度の意見交換会での議論を通じ、「よりインパクトある課題設定・取組としていくこと」が求められ、その実現のためにはより多様な関係者が参画するよう調整・交渉を進める必要があるのではないかと。
- ・ 活動の主体となる企業・団体の拡大に伴い、その活動に対するアイデア・知識を有する第三者の多様性の拡大も必要となることから、関与する第三者の特性も踏まえ、関与する場・方法を柔軟に設定する必要があるのではないかと。
- ・ 副代表団体・事務局は、協議会を魅力あるプラットフォームとして継続的に機能させるため、インパクトある課題設定、幅広い関係者との調整・交渉を牽引していく必要があるのではないかと。そのため高い視座を持ち、計画的に年度の事業を推進していくことが求められるのではないかと。



## ● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

### ● 令和4年度意見交換会・実践の場の方針（案）

令和4年度の意見交換会・実践の場の方針を下記の通り整理してはどうか。

#### 震災発災から11年

#### 東北地域の新たな課題

- 2019年に目標を1年前倒して外国人宿泊者数150万人泊を達成
- 2021年に三陸鉄道リアス線、復興道路が全線開通
- 復興から振興へ機運の高まり
- 振興に向けてインフラ整備が進んだものの、事業継承等の担い手が不足している

#### 翌年に活動10年目を迎える

#### 協議会の役割

- 設立当初は会員同士の情報共有、ノウハウ共有として役割を果たした
- 近年の会員の活動率は10%程度と推測する
- ノウハウの共有のみならず、実利につながることを求めているのではないか
- 実利につながる役割を目指す

#### コロナ禍による

#### 社会環境の変化

- コロナ禍により人々の交流は2年間制限された
- 移動することの意義が向上
- 物見雄山的な移動（観光）から、意味ある移動へ
- 人が本来持ち得ている知的欲求が増加し、移動することに意味を求めようになりつつある



## ● 4. テーマ案

### 意見交換会の方針及びテーマ

- 3県共通した意見交換会全体の方針をについて、「持続可能な地域づくり」に置いてはどうか
- また、3県共通した意見交換会全体のテーマについて、震災発災から11年が経過した中での、2023年のG7を見据えた「持続可能な地域づくりに向けた交流拡大」に置いてはどうか
- その上で、過年度からの議論を鑑み宮城県では、観光の視点を重視し、テーマを下記の通り設定してはどうか

✓ 宮城県：「持続可能な地域文化の継承と磨き上げ」

## ● 5. 取り組み内容案

### 「持続可能な地域文化の継承と磨き上げ」

#### ● テーマ設定の背景

宮城県ではこれまで観光振興と地域文化の継承を結び付けて議論を進めてきた経緯がある。多くの研究から観光と地域文化の継承は密接な関係があることは立証されており、この考え方は文化という側面から持続可能な地域を実現するために有効であると考えられる。よって、今年度の意見交換会・協議の場では観光による地域文化の継承を重要テーマと位置づけ、主に宮城県沿岸地域を舞台とした観光誘客に向けた磨き上げを行っていくこととする。なお、地域文化には震災遺構も含まれるものとする。

#### ● テーマ設定の目的

地域文化を活かした観光コンテンツにより来訪者の消費額を向上させ、文化の継承に貢献することで持続可能な地域づくりを目指す。

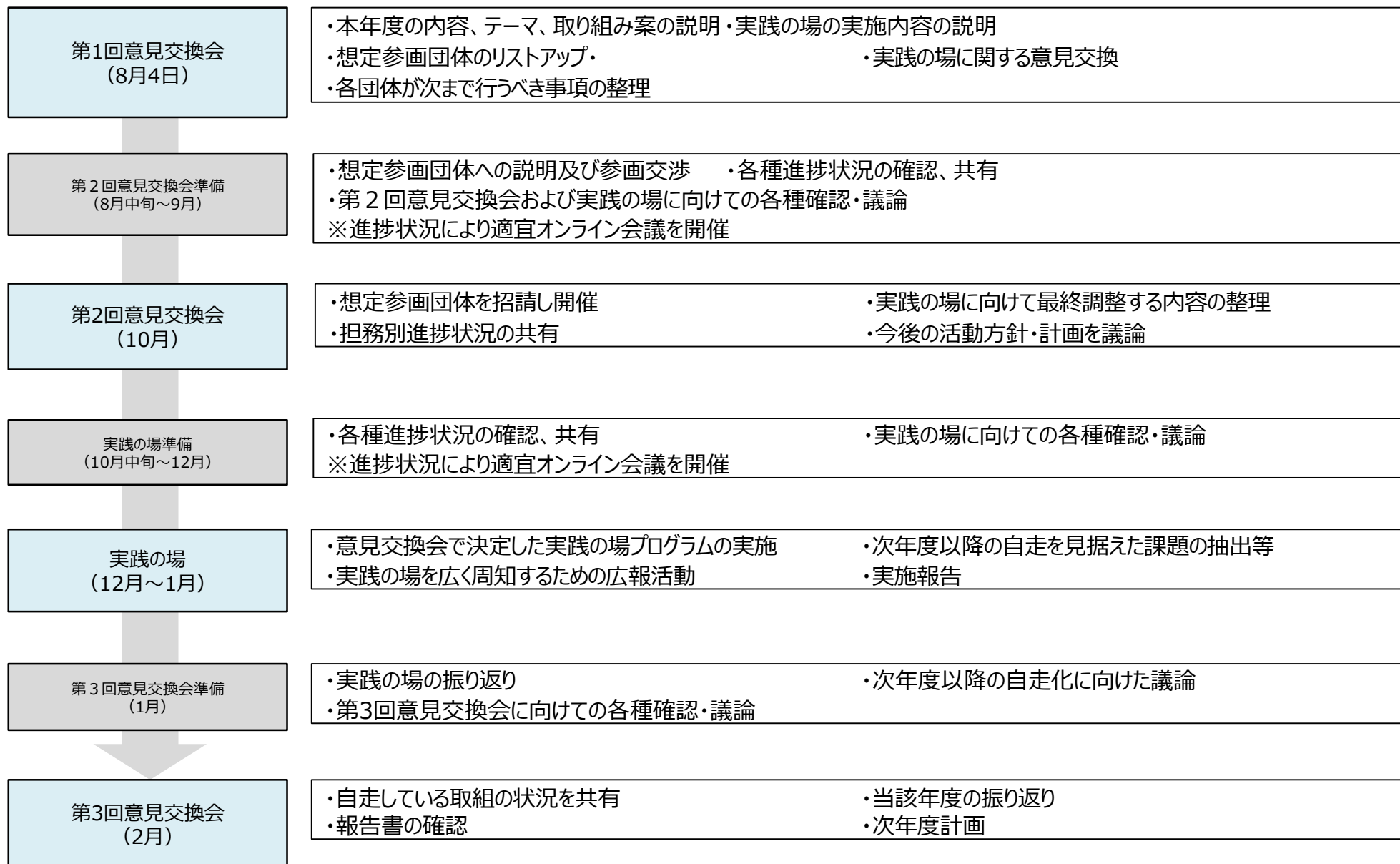
#### ※次頁以降「各団体」の定義

- ・主団体：実践の場で取り組む内容を主体的に担う団体
- ・副代表団体：意見交換会の場において、実践の場に向けた取組案に対する助言を行う団体
- ・参画団体：実践の場で取り組む内容において、主団体と連携して取り組みを推進する団体

## ● 5. 取り組み内容案

項目	内容
取り組みテーマ	「持続可能な地域文化の継承と磨き上げ」
主団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム</li> </ul>
副代表団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社七十七銀行</li> <li>・ 宮城県庁</li> <li>・ 国立大学法人東北大学</li> <li>・ 一般社団法人みやぎ連携復興センター</li> </ul>
想定参画団体	※第1回意見交換会にて検討
意見交換会 内容案	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 短期視点（案） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城県沿岸地域における「文化」のリストアップ</li> <li>・ これらの「文化」を活かした観光プログラムの有無</li> <li>・ 参画依頼を行う民間事業者のリストアップ</li> </ul> </li> <li>↓</li> <li>令和4年度取り組み（案） <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ G7開催時（仙台会場）、緑化フェア、大阪・関西万博を見据えた教育型プログラムの作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プログラムイメージ（案） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「語り部」が「ガイド」を兼ね、宮城県沿岸部の「震災の体験を語る+α」による教育プログラム</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>● 中・長期視点（案） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城県沿岸部の震災による被害を改めて整理し、平野部における防災の考え方をまとめる（各種研究結果のサーベイ）</li> <li>・ 上記を整理したうえで他地域との震災遺構としての差異化を図るための方策を検討する</li> <li>・ 宮城県沿岸部ならではの防災の観点から、教育プログラムとしての価値創出を行い、従来からある文化遺産と震災遺構を巡ることで価値を見出すことができるプログラムの検討及び収益化</li> </ul> </li> <li>↓</li> <li>令和4年度取り組み案（案） <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中長期視点による取組は、「持続可能な地域文化の継承と磨き上げ」に関する計画案策定</li> </ul> </li> </ul>
実践の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造成プログラムのモニタリングツアーを実施</li> <li>・ モニタリングツアー参加者と意見交換会メンバーによる意見交換</li> </ul>

## 6. 今後のスケジュール



## ● 7. ディスカッション

### 論点 1

過年度事業の議論を踏まえ、宮城県として実践していく内容に関するテーマ案を検討し決定する。

**ディスカッションテーマ①  
取組テーマ案の確認**

### 論点 2

取り組み内容に係る参画団体について、検討及び推薦者、調整方法を決定する。

**ディスカッションテーマ②  
参画団体の検討**

### 論点 3

論点 1、2 を踏まえ、今後のスケジュールを決定する。

**ディスカッションテーマ③  
今後のスケジュール  
の検討**